

平成26年度学校評価総括表

教育目標		自他敬愛に基づく協調の精神に富んだ心豊かな人間性を育成するとともに、自ら定めた目標に向かって意欲的に取り組む態度を育てる。			総合評価	
運営方針		日々の学習活動を大切にして生徒の進路実現を目指すとともに、学校行事や部活動を通して「知・徳・体」のバランスのとれた生徒を育成する。				
平成25年度の成果と課題		本年度重点目標	具体的目標		3	
日々の教育活動の成果として、規範意識が向上した。自転車通学マナーとともに、情報倫理に関する指導が課題である。部活動や勉強にまじめに取り組んでいるが、主体性と積極性に欠ける面も見られる。キャリア教育の推進によって、自らの目標を明確にし、主体的に取り組む姿勢を育成したい。教員間の連携を高めるために組織の改編をし、一定の効果は見られた。今後も、組織力強化に向けて取り組みたい。生徒の学力向上のために、教員の授業力のさらなる向上を目指す。		キャリア教育の推進	・学校教育のあらゆる活動を通して、将来のビジョンを描くことができるように進路指導を充実させる。 ・規範意識を高め、信頼される人間の育成を図り、コミュニケーション能力を向上させる取組を推進する。			
		学習意欲と学力の向上 自立した学習習慣の確立	・できるだけ早く進路目標を設定させ、目標達成のためにHRや個人面談を充実させる。 ・基礎基本を大切にし、論理的思考力・表現力・判断力を育成するために授業改善や工夫を図る。			
		グローバル人材育成(国際理解)の推進	・グローバルなコミュニケーション能力を高めるために、英語教育を重視する。 ・郷土の歴史や風土を知り、郷土を愛する精神を育成する。			
		地域との連携	・本校教育活動に対する地域住民の理解を得るための取組を推し進める。 ・開かれた学校としてあらゆる機会を利用して情報を発信する。			
		学校の組織力の強化と教育力の向上	・目標達成状況や課題の共有化・焦点化を図り、解決に向けた方策を探る。 ・学校評価を活用し、外部評価を念頭に置いた改善を図る。			
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	年度末			
			自己評価	成果と課題	改善方法	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方法
総務企画部	保護者・各種団体等との連携を深める。	多方面において、育友会・各種団体等との円滑で緊密な連携・協力を行い、本校教育への当事者意識を高める。育友会総会への多くの参加と活性化を図る。	3	育友会役員の関心も高く、非常に熱心に取り組んでいただいているが、仕事をされている保護者が多く、本部並びに学級役員の選考に苦慮する。総会への参加も、目標の100名以上には達することが出来なかった。30周年に向けて、総会の時期、曜日、内容等考慮する必要がある。	30周年に向けて、育友会、同窓会、後援会等とより緊密な連携を図っていきたい。	・常に新たなものを考え改善しようとする姿勢が必要である。 ・教育課程は全体の調和を考えたつ、無理のないように作成してほしい。
	卒業生との連携を強化する。	堅固な同窓会組織の確立及び定期的な監事会の開催など、活動の活性化を図る。同窓会総会には100名以上の参加を目指す。	3	昨年度の卒業生を中心に総会を実施することが出来た。30周年に向けて広報面を課題として、より緊密な連携を図って行きたい。		
	式典等の企画・運営と各部との連携を図る。	全校体制による、規律あるうちにも、温もりがあり、心に残る入学式・卒業式の運営を行う。	4	本校の伝統を受け継ぎ、厳粛かつ心に残る式を実施していきたい。教職員は裏方として協力しているが、放送機器の係に課題を残している。		・知・情・意と言われるが、特に情の部分が不足することが多い。不登校なども、そこが原因となることが多いので、注意してほしい。
	学校評価計画書の作成、総括会議を主催し、充実したものとする。	各分掌、教科、学年の基幹目標をまとめ、学校の教育方針を提示する。また総括会議を主催し、教育活動の検証と来年度への課題を明らかにする。	4	各分掌・学年・教科から出された基幹目標を、本校の教育方針としてまとめ、「学校評価」計画表として作成し、学校経営計画に掲載した。総括会議については、昨年の方法を踏襲して実施した。	職員の見解をくみ上げ、それを学校の方針に反映させられるような総括のあり方を追求する必要がある。	・部活動が活発で、さわやかな校風がよいと思う。これからも、このような学校であってほしい。
	年間行事計画の策定、月間行事予定表の作成を行う。	分掌・学年・教科の事業計画を調整し、年間行事計画を策定する。またそれに基づき月間行事予定表を作り、教育活動の円滑化を図る。	4	3 月間行事計画については、各分掌・学年の計画を調整し、まとめ、わかりやすく提示した。年間行事計画も、本年度の反省をふまえて作成した。	月間行事計画、年間行事計画とも、学校運営が円滑に行くようにさらに工夫し、作成に配慮してゆく。	・地域の住民だけではなく、地域にあるすべての学校と連携し、教育活動を活性化させてほしい。
	生徒、保護者からの意見を集約し、学校運営に活かす。	各種のアンケート、調査をおこない、保護者、生徒、外部の学校への評価を明らかにし、教育活動に生かせるようにしてゆく。	3	新入生アンケート、学期末の保護者アンケート、学年末の学校生活アンケートを実施し、結果を集計し、職員に提示した。マーカーリーダーを導入した。	データの分析は十分できていない。アンケートの質問内容も検討した方がよいところがあり、次年度の課題である。	・登下校マナーはよいと思うが、自転車の運転や特に無灯火で自転車を運転することのないように日頃から注意喚起をしてほしい。
	語学研修の企画、準備をする。	オーストラリア語学研修の実施にむけて研修を企画し、実施にむけて業者との打ち合わせなどの中心的役割を担う。	3	事前研修については、引率の教員やALTの協力のもと、年間を通してほぼ予定通り行っている。現地研修については、前回の反省に基づいて、訪問校を変更し、今回から添乗員を付けることとした。今後は、参加者および保護者の要望を踏まえ、直行便を含むフライト等を旅行代金を考慮しつつ再検討したい。	関係部署や業者と密に連携しながら、来年度以降の実施計画を検討していきたい。	
	本校の活動を広報し、教育活動の周知に努める	学校案内誌『碧き風』の制作、オープンスクールの実施等を通じて本校の良さを内外に伝える広報活動をおこなう。それらを通じて、本校生に愛校心が育つように取り組む。	3	7月の進路部の進学ガイダンスに協賛し、学校紹介をおこなった。10月のオープンスクールは、全職員に協力してもらい、スタッフ生徒を募集し、指導して実施した。今年は生徒が前面に出る運営にして、参加者からはよい評価を頂いた。	オープンスクールは、生徒の力を発揮させる今年の方策を推し進める一方、全職員の協力を得るため、実施時期に検討を加える。	

教務部	本校生の実態をふまえ、魅力ある教育課程を編成する。	平成27年度の教育課程編成に取り組むため、教科間の希望・要望を6月中に調整する。	4	3	平成27年度入学生の教育課程編成は、昨年度の審議を経た課程表を活用することによりスムーズに行うことができた。また、平成28年度入学生の教育課程については、検討小委員会の答申を受けて今年度中に原案を作成する予定である。生徒の進路希望を叶えつつ、選択科目のありようについては今後とも検討が必要であり、原案作成の要諦の一つであろう。少人数制の講座が本年度より増加する来年度は、講義室等の確保がより一層困難になるので、すべての教員の理解と協力が become 必要になる。	1) 教務部内において、仕事役割の継承を進めること。 2) 教員の共通理解を図るため、研修会を実施すること。 3) 情報を共有するため、ジャストコンパスを一層活用すること。 4) 教育課程の編成に関して、柔軟な発想と議論を行うこと。	
		選択授業や科目の設定及び見直し作業を行うとともに、特別教室や講義室の確保に努め、教室のダブルブッキング・ゼロを目指す。	3				
		生徒の希望に合わせて柔軟に対応できる教育課程の編成に取り組むため、週31コマの具体的な実施方法や土曜授業の是非について話し合う場を持ち、調整を行う。	2				
	授業時間の確保や学力保障のための取り組みをより一層推進する。	時間割変更及び各行事のスムーズな運営により、授業数確保に努める。	3	4	3		授業時間の確保については一定の成果が得られたと思う。特に、考査前の授業時間の調整は、昨年度以上に効率よく実施できた。また、不調であったチャイムの改修もあり、チャイムと同時に授業が行えている。課題として残るのは、各行事の時間調整が一部行えず、授業時間確保が進んでいないことであり、総括会議に向けた「学校への提言」でも書かれている提言を、次年度に向けて審議する必要性を強く感じている。
		授業時間確保のため、チャイムと同時に授業が開始できるようにする。	4				
		定期考査前の希望授業を確保するため、早期に調整表を掲示するとともに、時間割の調整に努め、授業補充希望が100%叶うようにする。	3				
		年間の定期考査時間割を作成・提示することにより、採点業務をよりスムーズに行うことを可能にする。	4				
	総合的な学習の時間「優」の円滑な運営を行う。	学年や分掌、担任や副担任を超えた協力体制の構築を一層進める。	3	3	課題は、「総合的な学習の時間」の進め方について、教員の共通理解を得るために必要な研修会を実施しなかったことである。年度内には是非実施したい。学年や分掌を超えた協力体制の構築を進めるとともに、運営に必要な情報の共有化を図りたい。来年度は教育課程研究指定校として2年目にあたるので、一定の成果を得られるよう、「優」の運営に尽力したい。		
		役割分担を明確化することで、「優」の円滑な運営を行えるように努めるとともに、負担感の軽減に繋がるようにする。	2				
教育課程研究指定校として、3年次における進路目標実現に向けて、他の分掌と連携を取りながら、「優」の運営に尽力する。また、次年度の課題テーマを12月中に決定する。		2					
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立とマナーの向上をめざす。	月一回の全校集会と毎日ショートホームルームでの指導を行う。	3	4	全体的には落ち着いた雰囲気での生活が出来ている。ただ、何事も自らで「気づき、考え、行動」ができる感性を培う事が大切である。 「日常の何気ない生活」の中で生徒とのコミュニケーションづくりを大切に、規範意識や基本的な生活習慣の向上をはかる。 十分な成果が現れている。今後も継続的に指導を続けていきたい。 生活委員会を中心に「挨拶運動や通学路清掃、自転車乗車マナー向上等」の取り組みが積極的にに行われている。	平素の学校生活の中で、基本的な生活習慣を守る事が規範意識の向上につながる事を理解させる。 教職員の共通理解と統一行動をより充実させる為に、学校生活全般での生徒とのコミュニケーションを大切に、情報交換を充実させ適切で効果的な指導を目指す。また、カウンセラーの助言を柱に、教育相談や支援チームの活動を円滑にする。	
		週3回の正門と周辺交差点の通学路指導を行う。各学期に1回の自転車通学生集会の開催と安全意識の定着を図る。	3				
		月3回のターミナルおよびバス乗車指導を行う。	4				
		毎月生活委員会による学級・校舎内掲示用の標語とポスターを作製し、登下校マナー等の向上及び啓発活動を行う。	4				
	『毎日全員が、瞳を輝かせ、胸を張って、笑顔で登下校』を目標に、あらゆる機会を通じ、一人ひとりの生徒理解に努める。	教育相談、特別支援を必要とする生徒の支援と、関係分掌との連携を密にし、明るく健全な生徒の育成に努める。	4	4	カウンセラーの協力で教育相談に関する研修を充実させた。職員全体の共通理解、統一行動などの協力体制を一層充実させる。また、関係生徒の心のケアだけでなく一般生徒も含めた支援の充実を図る。 アンケート活用にあたり、学年や職員全体の研修を充実させ、生徒理解に努める。 「コミュニケーションの基本はまず挨拶から」と生活指導をすすめている。お互いに自然と挨拶を交わす事の大切さを理解し、今後も生徒に伝える事が必要である。 情報機器の正しい活用法を十分に理解させる。また、集団の中でマナーやモラルを守ることと規範意識を構築させ、更なる人権意識の向上をはかる。		
		アンケート「教えてください」を活用し、面接週間の充実を図り、生徒理解に努める。	3				
		職員と生徒が自然に挨拶をかわす、明るく素直な校風の確立。	3				
		人権教育部との連携を図り、合同ホームルームの充実を図る。	4				
	部活動の活性化と学校行事を通じて積極的に取り組むリーダーの育成を図る。	生徒会指導部との連携を密にし、学校行事等を充実させ、生徒会役員のリーダーとしての意識を高める。	4	4	リーダー研修会、地域奉仕活動、生徒マナーアップ隊等を関係生徒の協力で充実した内容で行うことができた。今後は更に各種行事の牽引車として活躍を期待する。 生徒会指導部の円滑な企画、運営で各種行事を充実した内容で終えることができた。今後も連携体制を密にして、活動の活性化を図りたい。		
		文化祭実行委員会の活動を補佐し、その充実と活性化を図る。	4				
道徳教育実践研究事業を定着させる。	個人スローガン、学級スローガン、学校スローガンの策定を通じて規範意識を向上させる。	3	3	個人や集団の目標設定を明確にし、お互いの共通理解を深め、日常生活習慣や規範意識の向上に努める。			

生徒会指導部	生徒会役員の活動を促進し、全校生徒のリーダーとなり得るよう、各自の意欲と資質を高める。	生徒会定例役員会の時間を利用し、生徒会顧問が他校の具体的な実践例を紹介するなどの研修を実施する。具体的には、新入生歓迎行事や文化祭運営全般、全体行事、予餞会などの内容について考察させ、リーダーとして実践させる。	3	奈良県の家庭教育啓発チーム「きらら140」のセンターオフィスや「あしなが育英会募金」活動に引き続き参加し、積極的に活動してきた。また、「自転車マナーアップ隊」については、生徒会が呼びかけて全校生徒を巻き込んでいくことができた。その一方で、生徒会役員・庶務が少数となり、定例役員会の開催がうまくできないことが多かった。	県の生徒会交流会などで他校の取組みに学び、校内での生徒会役員会を定例化する。また、生徒会役員活動を1つずつ積み重ねて、生徒会活動が身近になるようにさらに全校生徒を巻き込んでいくことを推進する。生徒会活動推進のため、生徒会役員の任期の変更も視野にいれたい。	
	生徒会専門委員会の活動を活性化させ、生徒の主体的な活動を促進する。	生徒会の各専門委員会で立案された活動計画により、積極的な活動を行わせる。具体的には、ポスター掲示、スローガンなどの作成にとどまらず、年間2回の各専門委員会委員による登下校時の活動などにより、全校生への啓蒙を図る。	4	各委員会の活動もさかんとなり、おはよう運動・清掃奉仕活動・赤十字募金など委員会担当の教員の指導・協力により、生徒たちが主体的に活動する場が増えている。	生徒会専門委員会の各委員長を前後期で第3学年から第2学年に譲り、通年で活動できるようにしたことを最大限に生かして、各委員会の新しい取組みを企画させる。	
	各々の分野の生徒リーダーの育成を生徒会が他分掌と連携して、生徒リーダーの育成を図る。	生徒会本部や学級室長、部活動キャプテン(部長)・各専門委員長などのリーダーがともに良き学校にするために日頃から協力し合い、母校愛を促すように研修会のあり方やオリターの持ち方を考える。	4	4	良き学校にするために、生徒会が主体となって、リーダー研修会の際には、リーダーごとに課題を見つけて話し合う研修を行った。オリター研修は、学校のリーダーとしての責任と自覚をつける機会と位置づけ、現在準備中である。	前期に行うリーダー研修会だけでなく、学校行事前に生徒会が中心となり、生徒を前面に出した活動を推進する。
	生徒どうしの連帯感や愛校心を高め、学校の活性化を図る。	生徒の主体的・積極的な活動のために、生徒どうしがお互いを支え合い、信頼しあえる関係を構築し、各分掌との連携を図り、行事等の企画・運営を行う。	4	各分掌と連携した文化祭、体育大会、自転車マナーアップ隊、清掃美化活動、生徒総会、オープンスクール、オリター、検定試験などを通して、生徒一人一人が学級・部活動などでチャレンジ精神を大事にしながらかつ活動しており、連帯感が構築されてきている。	すべての教育活動を通じて、さらにチャレンジ精神の向上をめざし目標を定めて、主体的に活動できる環境作りをすすめる。また、目標達成に向けた修正にも柔軟に対応するように職員が助言を行う。	
	分掌内の分担内容を効率的に行う。	分掌内の分担内容を各役員が理解し、役員相互の協力によりスムーズな運営を図る。	3	分掌内の役割分担が当初の運営計画と違って、うまくできないところがあった。	学校行事等で役割分担が職員全体にわたる際も、分掌内の各役員が統括をして、学年や他分掌をはじめ全職員の共通理解が徹底するよう努力していきたい。	
進路指導部	向上心を持って、粘り強く努力した生徒が希望の結果につながるようサポートできる体制を確立する。	生徒個々に対しては、校外模試を利用した動機付けを行い、スケジュールに基づく学習に取り組ませる。	3	特に3年生は、4年制大学・短大など進路先毎の集会等も行ってきたが、向上心を持ったアクションにつなげることができなかった。生徒たちの情報収集能力にも見られ、自立するより依存する傾向を払拭できなかった。	自立する生徒を育てる指導法を模索したい。 ①明るく、向上心を持って取り組む校風をつくるためにも明るく、展望のもてる進路指導を行う。またキャリア教育の視点からも生徒指導部・生徒会指導部と連携する。 ②「総合的な学習の時間」は大学の学びを知るという目的も含まれており、教務部と連携する。 ③BTを改革する。生徒が思考し、自分の意見を持ち、人に伝える能力を高め、学ぶ楽しさを感じる容に改革する。 ④授業において、アクティブラーニングが導入されるよう訴える。 ⑤各種講演会等において、外部人材を積極的・効果的に登用する。 ⑥各学年・教科と協力し、校外模試を有効活用する。 ⑦進路の情報収集のため、職員・生徒に対して情報サイトの利用を促す。 ⑧めぐるしく変わる進路情報・動向の調査や報告を確実にを行う。 ⑨再来年度の諸検定の内容と、実施時期について、現状のままで良いかの再検討を行う。	
	集会・面談等通じた意識付けを行うとともに、大学の学びに対する理解を深めさせる。	3				
	生徒が、高い学習意欲を持ち、自主的に学習に取り組む姿勢を育てる指導体制をめざす。	BT・実力養成講座を通じて、希望進路実現のための実力を身につけさせるとともに、目的意識を持って自主的に学習する態度を養う。	3	BTの時間に、集中して取り組めない生徒がある。また、語彙検定について、この3年間で1年生の3級合格率が上昇を続け、2年生の準2級の合格率が下降し続けている。入試における外部 検定重視の傾向から28年度の検定実施時期・内容は再考する。		
	10年後・20年後を見据えたキャリア教育を推進し、将来像を抱かせる。	1・2年生に対しては、語彙読解力検定・GTEC等、BTと連動した取り組みの中で、結果にこだわる指導を行う。	4	3		総合的な学習の時間・学校行事・部活動・BT・授業等、様々な機会を通じて、思考力・プレゼン力等の身につけるべき力を認識させることが重要で、その自覚が学力の向上にもつながる。教員全体でキャリア教育を推進するという認識を高める必要がある。
	保護者に対し、必要な情報を伝えるとともに、意思疎通を図る取り組みを行う。	他分掌と連携し、道德教育をはじめ、職員全体で様々な機会を通じて、社会に必要な要素を自覚した学校生活を送らせる。	3	3		1年生・3年生の保護者に対して、夏の講演会を実施したが、保護者の意識高揚に有効であった。また、資料頒布会でも多くの保護者が訪れていた。
	教職員に対して、外部で得た様々な情報・データを示し、教職員全体で指導についての共通理解を図る。	各講演会・教科・HR・部活動を通じて将来を見据えた指導を行う。	3	4		大学の入試担当者に対する入試情報の直接の聞き取りは有効であった。3年生教員に対する、予備校担当者を招聘しての研修会など有意義に実施することができた。
	保護者対象の進路説明会を行い、進学・就職に対する理解を深めてもらう。	配布物を通じて、保護者に対して情報を提供する。	4	4		
生徒に対して、あらゆる教育活動を通じて、生徒が向上心を持って取り組めるよう指導する。	各種の情報提供を行い、研修会を実施するなど、本校の実態と、大学受験の現実に対する共通理解を深める。	2	3			

人権教育部	さまざまな人権問題を自らの課題と考えて、周囲のなかまと力を合わせて解決していく生徒を育てる。	新たに3年間を見通した人権ホームルーム活動の年間計画を確定するとともに、テーマにそった指導案の作成や資料等の収集に努める。	3	3	各学年とも年間計画にそって人権ホームルームを実施することができた。ただ学年によっては1時間で展開しなければならぬテーマもあり、やや難しい面もあった。	新しく設定したテーマを進める上での課題を整理し、見直しが必要な部分等があれば改善し、次年度の計画に反映させたい。
		他の分掌と連携しながら、多方面から人権問題にアプローチできるような工夫を行う。	4		1学期には生徒指導部と合同で全学年において「ネット社会の問題点」について、3学期には総合学習と連携して第1学年において「世界の子どもの現状を理解する」をテーマに設定し実施した。	次年度も引き続き他の分掌と連携して人権ホームルームを展開していきたい。その際、講演会等を催すにあたっては、経費の面で検討すべき課題が残されている。
	他者との個性のちがいをよく理解し、共に社会生活をおくることのできる生徒を育てる。	ろう学校との交流会やボランティア活動などの体験を通して、社会における共生の在り方について考える機会を設定する。	4		ろう学校との交流会は本年度も2回実施することができた。参加生徒は生徒会、家庭クラブ、その他有志という限られた範囲ではあるが、本校生徒にとっては貴重な機会となっている。	次年度も続けていくにあたって、事前の学習として、参加生徒にろう学校の生徒の学校生活等を理解する機会を設けていきたい。
	一人一人の生徒が人権意識を高められるような取り組みを進める。	人権について発信する機会を増やし、人権問題を日常的に考えられるように努める。	2		人権ホームルームと講演会以外で、日常的に人権について考える機会を設けることはほとんどできなかった。	人権に関するニュースや資料等を掲載した広報紙のようなものを作成する方法も検討していきたい。
健康教育部	心身の健全な発達とその維持は、すべての生活の基礎であることを十分に認識させ、生徒ひとりひとりが集団の中で、健康と安全に関する諸問題を自主的・科学的に解決する能力や態度を養う。	身体測定や各種検診の結果をふまえ、生徒ひとりひとりが集団の中で自主的・自発的に心身の健康を維持することができる態度を身につけさせる。	3	3	教科「保健体育」の授業や保健室での「保健指導」により健康の保持増進や体力の向上について考えさせ、その態度を身につけさせることができた。一方で、集団の一員として、集団の健康の保持増進に寄与できる生徒の育成も必要である。	自己の「健康」や「体力」について、関心が持てるような実生活に即した教材の精選や指導が必要である。特に保健委員の活動を通じ、集団の健康の保持増進に寄与する態度を身につけさせたい。
		各種検診や測定の結果に基づき、生徒ひとりひとりが自己の心身の状態を正確に把握し、健康の保持増進と、よりいっそうの体力の向上に対する正しい知識を身につけさせる。	3		自己の心身の状態を正しく把握し、健康の保持増進や体力の向上について、正しい知識を身につけることができた。一部の心に健康問題を抱えている生徒の存在も見逃せない。教育相談支援室やスクールカウンセラー・保健室・学級担任と健康教育部が一体となり指導できる体制づくりが必要である。	今後、増えていこう「保健室登校」の生徒にどう対応するかを考え、実践していかなければならない。
		学校保健委員会や生徒保健委員会を通じて、集団の中における科学的・合理的な学校保健の推進に努める。	2		「学校保健関係のポスター」や「保健だより」だけでなく情報機器等を活用し、さらに広報活動を充実させる必要がある。	情報機器の積極的活用のため、情報セキュリティ担当者連携する。
	運動による健康の保持増進の重要性を理解させる。	各種の体育的活動を通して健康に対する自己管理能力を高め、運動と安全に対する自主的で積極的な姿勢を身につけさせる。	3		「体育」の授業を中心に、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎力育成という重点課題は概ね身につけさせることができた。	3学年で行っている「選択制体育」を充実させ、グループ学習により、自主性を重んじる「体育的活動」に重点を置き指導する。
	食育の推進を図る。	食習慣の把握に努め、正しい食生活の理解と関心を高める。	2		生徒指導部や教科「家庭」・「保健」との連携を深め、食育に関するアンケート等を実施し、その実態を把握する必要がある。	全校生徒による「食育に関するアンケート」を実施する。
	美化委員の自主活動を支援する	美化委員会の活動を通して、日常生活の場である校舎・教室等を快適で美しく保とうという意欲と意識を育てる。また、花の栽培を美化委員会に提起し、美化委員による美しい環境を創出する活動を支援する。	3		美化委員は、文化祭での環境巡視活動に従事し、積極的に環境維持に務めた。また、業者による廃品回収に際しては、3年生の美化委員を中心に協力した。	文化祭において、美化委員としての任務の重要性の理解とそれに取り組む意欲の喚起を促す指導を徹底する。
	各学級での美化活動を支援する。	環境倉庫の整理整頓と用具の整備を進め、学級での美化活動に対しての側面からの支援をする。	3		清掃用具や消耗品の補充を事務室の協力を得て行った。大掃除の回数が少ないとの指摘を受け、来年度以降の課題としたい。	年度当初に年間行事計画を見ながら、大掃除が必要と思われる箇所を点検する。
	購買の利用の利便性の向上と利用上のマナーの指導。	購買での利用を円滑に進めるために、利用時間等の変更などを適切に連絡する。また、購買との連絡を密にして、生徒の利用の便を図る。さらに、利用状況などを学級担任等に密に連絡をとり、利用マナーの向上につなげる。	4		購買では、学校や生徒の実態をよく把握した上で運営して頂いており、こちらの応援が必要などときには、連絡を取り合っただけであった。今後も購買との連絡を密にし、生徒に不都合が生じないように尽力していきたい。	購買との連携を密にすることが、全てである。今後もこのことを念頭に実践していくことが重要である。

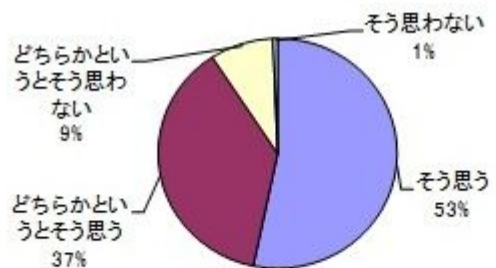
文化 図書部	図書館の有効利用を促進し、生徒の知識欲の高揚に努め、読書習慣を身につけさせることにより、自ら思考し判断する力や表現力を養う。	各教科・各分掌との連携を図り、必要な資料や情報を提供し、教育課程の展開に寄与する。	3	3	<p>1. 資料提供について 成 果：教科や学校行事、時事に合わせ、関連図書の展示や紹介をした。 課 題：展示が計画的でなく、依頼や司書の自主性に任されている。また、学校の教育課程の展開に寄与する学校図書館(学校図書館法)にはほど遠い。</p> <p>2. 読書の推進について 成 果：教職員の推薦本・生徒のリクエスト本などの購入、生徒との地道な関係作りを通して、読書の推進が出来た。年間(1月末現在)貸出冊数は、1年は837冊、2年は521冊、3年は676冊、教職員512冊、合計2546冊の貸し出しがあった。 課題：昨年度よりも総数で約500冊下回っている。特に第2学年の貸出冊数が少ない。</p> <p>3. 図書委員会について 成 果：日常の図書館活動の他、「読書週間」「ベルマーク集め大会」「文化祭参加」「古本交換市」「ポップコンテスト」など実施した。今年度は約24,000円分のベルマークが集まり、ベルマーク預金で図書委員会選定の図書を約20,000円分購入した。また、委員会活動の一環として文化祭で「ブラックパネルシアター」を上演した。 課 題：図書委員に自主的に活動してもらいたい。</p>	<p>1. 改善案：①年間計画やシラバスを参考に、司書教諭の指導のもと、年度初めに1年間の授業や行事支援の計画を立案し、それに基づいて資料提供を実施する。</p> <p>2. 改善案：①蔵書の充実を図り、生徒が利用しやすい環境を整える。②広報活動に努め、生徒の目を図書館に向けさせる努力を続ける。</p> <p>3. 改善案：①生徒の意識を向上させ、自分の役割を自ら考えて取り組むよう働きかける。</p> <p>4. 改善案：①生徒会指導部と連携をはかる。</p>
		読書の推進に努め、年間貸出冊数1人3冊、各学年800冊以上を目指す。	3			
		図書委員会の広報活動を活発にし、ベルマークの収集に取り組み、図書の充実をはかる。	4			
	文化・芸術、伝統への理解と認識を深め、豊かな情操を育む。	文化祭における質の高い発表をめざし、文化委員の指導と支援に努める。	3	3	<p>4. 文化委員の指導と支援について 成 果：文化委員会は、立て看板・各学級のポスター・プログラム・表彰(投票用紙・賞状作成や集計)を担い、文化祭を盛り上げる取り組みをした。また学級への支援として、文化祭関連の参考図書コーナーを設置した。 課題：生徒の文化祭における質の高い発表の支援として、今後どのような方策を考えていくかが検討課題である。</p> <p>5. 文化鑑賞会について 成 果：本年度は、茂山千五郎家の「お豆腐狂言」を上演し、97パーセントの生徒が「よかった」と回答した。 課題：鑑賞会の実施の時期と方法をどうするか。</p> <p>6. カルタ会について 成 果：昨年度に引き続き1月末に予選・本選を実施した。全員参加の予選では盛り上がりが見られた。 課題：来年度は「総合的な学習の時間」とHRの日が異なるため、実施方法を再考する必要がある。</p>	<p>5. 改善案：①アンケートにもとづき、実施の時期と方法を検討する。②他の分掌と連携して、行事の精選、統合を図る。</p> <p>6. 改善案：①練習日と予選日が異なるため、有機的につながるような運営を考える。</p>
		文化鑑賞会(古典芸能)の内容の充実に努め、文化に対する意識を高める。	4			
		百人一首カルタ大会の成功に向けて文化委員会活動を活発にし、日本の古典文化への理解と関心を高める。	4			
	情報・視聴覚機器の有効利用を促進し、学習意欲の高揚に努める。	図書室内のパソコン活用を促進し、情報収集の支援を行う。	2	2		
		視聴覚室内及び図書管理室内の視聴覚機器の活用を促進し、効果的な授業展開に寄与する。	2			
		電子情報機器を適切に管理し、利用を促進する。	3			

第1学年	基本的な生活習慣の確立をはかり、健康的で規則正しい生活を行い、学校生活を充実させる。	日常の挨拶の励行、不注意による遅刻が最小限になるよう努	3	3	部活動での指導や教員からも挨拶をすることで、挨拶は徐々にできるようになっているが、まだまだ不十分である。継続して取り組みたい。遅刻は2学期以降増えてきた。遅刻の多い生徒には個々に指導している。特に雨天時などは遅刻者が多く、指導が必要である。約80%の生徒が部活動に参加し、活発に活動している。途中でやめる生徒はほとんどいない状況で、よく頑張っている。部活動と学習の両立の難しさの中で日々成長している。、今後も一つずつ指導し、一步一步前進させていきたい。	毎日の生活、活動、取り組みの中で、様々なことに気づき、考えて自分の中に生かして、工夫し続けることが成長、進歩につながることを意識させる。教員間の意志疎通をより充実させ、日々の生徒との挨拶やコミュニケーションを大切に、あらゆる機会を成長につなげる指導を目指し、来年度は3学年の先頭で学校全体を引っ張ってゆける学年にする。		
		部活動への積極的な参加を促す。	4					
	目標をたて、向上心を持って生活にのぞみ、学習に取り組ませる。授業を大切に、家庭学習も充実させる。自主的に学習する姿勢を養う。	部活動に参加することなどで、個々の生徒がもつ課題を成し遂げられるように励ます。それにより、学校生活を意欲的に取り組ませる。	4				3	部活動において顧問や上級生より意欲的に学校生活を送るよう指導、アドバイスされる。学年会議で生徒の情報交換を行ったり、教育相談支援室と連携を取り合い、個々の生徒に対応した。生徒指導も学年全体で取り組み、多くの教員からいろいろなアドバイスが与えられた。授業は静かに聞いているが、自発的な学習がまだ不十分である。家庭学習の方法などについて具体的な方法を考えさせ、個々に身につけさせる必要がある。定期考査で不振である者に対しては、担任が個人面談で、自己点検させ、各教科で補習を行い、次の考査に向け学習させた。2学期にはポーションナルガイダンスで、本校卒業の各種企業の先輩方の話を聞き、自分の将来について、今自分のすべきことについて考えさせる良い機会になった。進路実現に向けて具体的な行動を起こさせる指導を今後取り組んでいきたい。
		日々の授業、予習・復習への取り組みを大切にさせる。	3					
学校生活を積極的に取り組ませ、行事などを通して、生徒の連帯感や協調性を高める。同時に、他者への思いやりの心を育て、互いの違いや個性を認め合い連帯していける個人を目指す。	面談やHRなどで自己の将来像を思い描かせ、その実現に向かう姿勢を育てる。	3	3	校外学習、球技大会、体育大会、文化祭など学級の取り組みは、担任の指導のもと、各委員が中心となって学級全員で話し合い、役割分担をして取り組んだ。総合的な学習の時間では、1学期は壁新聞の作成で、3学期は国際理解教育のグループ発表で、話し合い、協力して新聞の作成、説明資料の作成、発表の分担など、各自が自己の責任を果たした。1学期に情報リテラシー、2学期に人権作文、豊学校から講師の先生に来ていただいて、人権感覚を身に付けさせる取り組みを行った。3学期にはNPOの活動家の方からアフリカ諸国のこども兵士、少年兵士についての実態報告をいただき、世界の人権問題について考えさせ発表させた。				
	生徒間や職員とのコミュニケーションの機会を出来るだけ多く体験させるため、各種委員などの役割を活用し、発表の機会を多くする。	3						
	行事や総合的な学習の時間を通し、自己の役割を果たし、協力して活動をする。	3						
第2学年	基本的な生活習慣の確立をはかり、健康的で規律正しい学校生活ができるようにする。年齢にふさわしい判断力、行動力を持った人間へと成長させる。	HRや総合的な学習の時間を通じて、相手に共感する姿勢や他を認め合う態度を培う。	3	3	2年になり多くの生徒たちに成長がみられた。さまざまな生育環境の中で精神的に不安定な状況の生徒たちには、教育支援室と協力のもと、本人や保護者から話を聞き、生徒理解をしたうえでアドバイスを与えることで支えてきている。不登校生徒についても学年教員の共通理解のもと、必要に応じて補充授業を行い、学力保障をしてきた。自主性を育てることと遅刻生徒生徒を減らすことは課題である。	今も行っているが、まだ精神的に不安感を抱える生徒がいるので、コミュニケーションの機会を多く持ち、生徒理解の上立った支援が必要である。そのために生徒が偏らない学級分けを考える必要がある。来年は進路実現をする学年であり、入試は学級、学年の雰囲気や大切にした団体戦になることを理解させて、家庭学習の充実させ、着実に実力を伸ばす取り組みが必要である。		
		学校での生活状況に目を配り、必要な助言やアドバイスを行い、規律正しい安定した生活ができるように指導する。家庭と連絡を密にして生活の乱れをただしていく。	4					
	規範意識を養い、問題行動には時宜を得た適切な指導を行う。様々な機会を利用して、中堅学年としての自覚を持たせ、自主性を育て、自らルールを守るように取り組む。	3						
自己の目標を明確にし、向上心をもって学習に取り組ませる。授業を大切にさせるとともに、家庭学習を充実させる。自主的に学習する力をつけさせる。	進路について考えさせ、目標を持たせるようにする。進路目標を見ずえ、また高校生としての教養を身につけられるよう、具体的な学習方法を自ら考え、自主的に学習する力をつけさせる。	3	3	授業にのぞむ姿勢はおおむね良好であるが、家庭学習の不足などによる学力の定着はまだ不十分である。修学旅行後、学力の向上を目指して、HRや授業において学力の向上に取り組んできている。2学期には期末考査前に成績不振生徒に補習を行うと同時に、学習場所を提供して自主学習をさせることで一定の成果が得られた。また、将来の目標設定を具体的なものにするよう担任との面談が行われた。しかし、来年度に向け、家庭における学習習慣の確立を考えていく必要がある。そして、学力をつけている生徒のさらなる向上をめざす取り組みも考える必要がある。				
	面接などを通じ、生徒の学習状態をつかみ家庭学習の方法を工夫することで、学習の充実を努める。	3						
	学校行事や総合学習に積極的に取り組ませ、責任を果たす大切さ、協力する素晴らしさを体得させ、仲間意識を高め、団結する集団作りを行う。また修学旅行において、協調性を育み、教養を身に付けさせる。	3						
積極的に学校生活に取り組ませ、行事をとおして生徒の連帯感・協調性を高める。互いの個性や違いを認め合いながら連帯してゆける仲間作りをすすめる。	部活動に積極的に取り組ませ、人間的成長を果たし、学校生活を充実させる。	3	3	修学旅行は準備に不十分なところがあったが、教員の協力で無事終了することができた。アンケートより多くの生徒の満足度は得られたが、内容的には観光的なものが多く、キャリア学習を取り入れることはできなかった。文化祭では全学級が舞台発表にのぞみ、学級内で協力するすばらしさを体得させることができた。総合的な学習については、グループ内で協力して一つ課題を研究する場を設けられた。ただ、グループ内のメンバーが全員活動している状況をつくる必要性があるという課題、取り組みの指示系統の確立などの課題が残った。部活動においては活動の中心として主体的に活躍する生徒が育ってきている。				
	HRや日常の学校生活で、互いの違いや個性を認め合いながら、連帯感を築けるような学級作り、仲間作りに努める。互いを支え、高め合える仲間作りに、あらゆる機会を活用して学年として取り組む。	3						

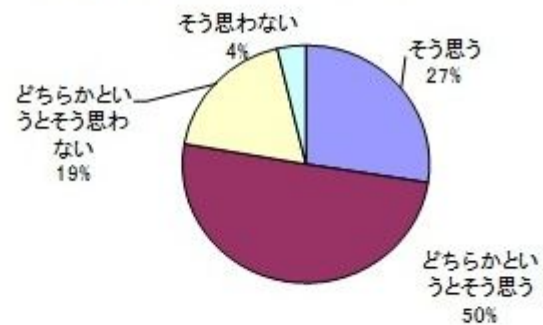
第3学年	第3学年としての生活習慣の確立をはかり、健康的で規律正しい学校生活が出来るようにする。社会に出て行くにふさわしい自立心をもった人間形成を目指す。	生徒の学校での態度・行動に目を配り、生活状況を的確につかみ、必要な助言やアドバイスをを行い、規律正しい安定した生活ができるように指導する。遅刻・欠席については、家庭と連絡を密にして増加を防ぎ、生活の乱れを正していく。	3	3	3年最期の生徒アンケートでは、本校に対しておおむね好評価をしていた。2学期に行った進路指導部によるキャリア教育の一環としての学年集会在がともよかったので、来年はぜひ1年生でも行ってほしい。	
	進路についてしっかり考えさせ、自らの目標に向かって、向上心を持って学習に取り組むように指導する。授業に集中して取り組み、家庭学習を充実させる。学習方法を工夫し、自主的に学習する力をつけさせる。	BTIに関して自らテーマ・課題を見つけて自主的に学習し、集中する態度を身につけさせる。実力養成講座に積極的に参加を呼びかけるとともに家庭での学習習慣を確立させる。	4	3		進路についての考えが本校卒業直後の進路に限定されている生徒が多いと感じられる。どこで何を学びそしてどのような形で社会に出て行くのかが深まっておらず、キャリア教育としての弱さが出ている。授業は静かに聞いているが、全体的には積極性が感じられない。成績面で中位～下位の生徒に対する指導(補習等の学習時間)を増やすべきである。家庭での学習習慣に弱さを感じられ、入学時の指導の大切さを強く感じる。
		HRや日々の学校生活において、自己を見つめさせ、向上心を持って具体的な進路目標を設定し、それに向けて努力出来るように助言・援助・指導を行う。進路実現のための、基礎学力と応用力を身につけ、授業に集中して取り組めるように指導する。	3			
		学校行事に積極的に取り組ませ、責任を果たす大切さ、協力する素晴らしさを体得させ、仲間意識を高め、団結する集団作りを行う。	4			
	積極的に学校生活に取り組ませ、行事を通して生徒の連帯感・協調性を高める。互いの個性や違いを認め合いながら連帯できる仲間作りをして、他者と共存できる社会性を身につけさせる。	部活動に引退まで積極的に取り組ませ、人間的成長を果たし、学校生活を充実させてゆく。学習が単に受験を目的としたものだけでなく、幅広い教養と生きる力となるように、指導する。	3	3		最終学年として、生徒たちは学校行事に積極的に取り組んだ。試行錯誤しながらも仲間と協力することの意義を学び、身につけていった。後輩のことを考え、よき先輩として、部活動に取り組もうと努力する姿が多く見られた。部活動を通して、人間的に成長することのできた生徒が多いと感じられる。本校の目指す文武両道の理念は部活動に関して成果を上げていると思われる。ただ、学習面では受験を目的とした面に限定しても、不十分である。ましてや幅広い教養や生きる力の涵養には至っていない。学習指導の更なる充実が必要だったと痛感する。教室に入りにくい生徒など、さまざまな困難を抱える級友に対する、温かさを持った生徒が多かったことが何よりうれしい。担任を始め学年の教員全体で、しんどい生徒を支えとの意識を共有したことが、学年全体の生徒に伝わったのだと考える。
		HRや日常の学校生活で、互いの違いや個性を認め合いながら、コミュニケーションを深め、進路実現に向けて一致団結して取り組めるような学級作り、仲間作りを努める。	3			

評価基準 4:達成度90%以上 3:達成度70%以上 2:達成度50%以上 1:達成度50%未満

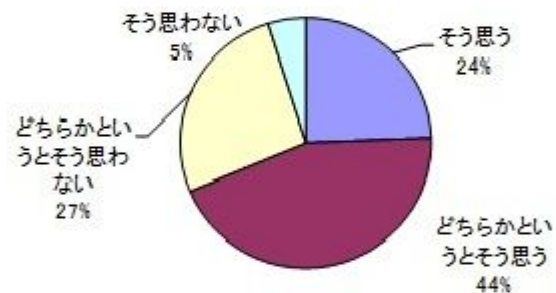
授業を受ける準備はできているか



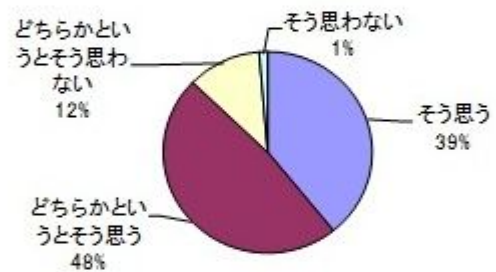
授業で充実感が得られたか。



授業に積極的に取り組んでいるか



先生の説明時に集中しているか



授業を通して、興味・関心が高まったか

